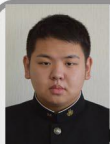




12月4日(月)、「第21回やくも少女ゆめ議会」が、八雲町議会議場で開催されました。
 今回は、高校生8人(うち1人が議長)が、日頃感じているまちづくりに対する提案や意見を発言しました。その内容をまとめて掲載します。
 (ページの都合上、要約し掲載しています)

第21回 やくも少女ゆめ議会



さがえ そう
寒河江 奏 議員(八雲高校1年)

若者の定住を図るための 上級学校の設置

八雲町は、漁業、農業、祭りなどが素晴らしいと感じますが、まちの魅力がまだ、十分にアピールされていないと考えました。例えば、地元の海産物や農畜産物が食べられるお店が目立たないことです。八雲町は、高速道路や特急が停車するなど交通の便は良さそうですが、ほとんどの観光客には通過点とされている気がします。そこで必要なのは、まちの魅力を全国に発信する行動力ある若者の力が必要と考えます。高校卒業後、進学や就職でまちを離れてしまう若者の定住を図るために八雲町への上級学校の設置を提案します。

答弁)町長

ここ数年の八雲高校の卒業生の進路状況は、約8割の生徒が大学や短期大学、専門学校などの上級学校へ進学し、まちを離れています。八雲町では、将来、農業、漁業および商工業を後継ぎしようとする方に対し、高校、大学、短期大学に進学する際に奨学金補助し、卒業後に一定期間、町内で自営の農業、漁業および商工業に従事した場合は返還を免除などし、後継者の育成と地元就職の促進を図っています。議員ご指摘のとおり、八雲町の魅力を全国に発信する行動力ある若者の力は、大変重要であるとともに、求められているものと感じています。

現在、八雲町では、4名の地域おこし協力隊によるイベントの企画・運営やフェイスブックを活用した情報発信など、若者の視点で新たなことに挑戦しており、人とのネットワークが広がることは、まちに活力を与えてくれるものと考えます。

また、若者の定住を図るために上級学校を設置してはどうかという質問についてですが、大学や専門学校などが設置されれば、町内の若者流出防止や、町外からの学生流入により、地域活性化の効果は期待できますが、少子高齢化が進む中において、大学や専門学校などが新たに町内に立地する可能性は厳しい状況にあると考えています。しかし、現在、八雲町内には、日本大学生物資源科学部の演習林や、北里大学獣医学部の牧場が設置されています。それぞれの大学とさまざまな交流を通して、地域づくりや人材育成に繋げる域学連携を行っているところであり、こうした活動を継続しながら、将来の上級学校設置に向けて努力していきたいと考えています。



やすだ りな
安田 梨菜 議長(八雲高校2年)

開会にあたり

本日は八雲高校の代表で議員という貴重な体験を通して、私たちが日頃感じていることや、まちへの希望などを話し、議会の仕組みや議会の役割についてを理解したいと思います。議事進行をスムーズに進めるよう努めたいと思いますのでご協力をよろしくお願いいたします。

閉会にあたり

皆様のご協力により「やくも少女ゆめ議会」の議長を無事に務めることができました。議長席に座り会議を進め、また議員の席に座り議場で質問することは、私たちにとって、初めての経験であり、緊張とともに、非常にうれしく思いました。この体験は一生忘れられない思い出になります。今日は、本当にありがとうございました。



いとう かのん
伊藤 花音 議員(八雲高校2年)

SNS「TRIP」を利用した 体験型観光の発信

「TRIP」とは、体験型観光を提案する人・事業者とユニークな体験がしたい旅行者をインターネットで繋ぐ売買プラットフォームです。牛の乳搾り体験、ホタテの耳吊り体験など八雲町ならではのイベントを体験してもらい、SNSなどを通して発信してもらうことで観光客数も増えるのではないかと思いますので、まちおこしのひとつとしてご検討ください。

答弁)町長

八雲町には、都市部にはない農業、漁業が身近にあり、議員のご指摘のとおり、搾乳や耳吊りなどの体験は、魅力的な観光メニューであると考えています。議員も参加された上智大学との交流事業でも、参加した大学生、高校生の皆さんにその魅力や可能性を感じていただいたところです。さらに、若い人たちのSNSによる発信は、まちのPRや観光振興の手法として有効とされていて、そのひとつが「TRIP」であると認識しています。今後、例えば都市部の視点で上智大学との交流などを通し、八雲らしい魅力的な体験メニューと効果的に発信する仕組みや方法について、「TRIP」の活用も含め、皆さんとともに考えていきたいと思いますのでご協力をよろしくお願いします。